



秋の味覚 「さつまいも」

- 家計調査結果より -



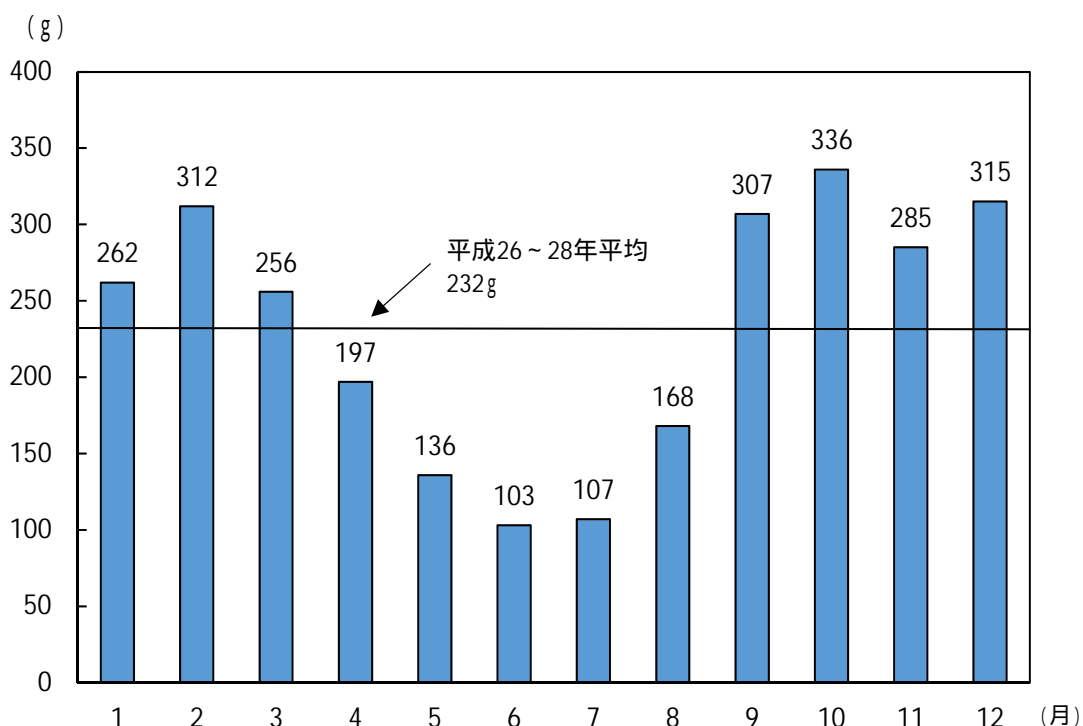
食欲の秋がやってきました。先月は、秋の味覚の代表として「さんま」について紹介しました。今月は秋の味覚パートとして「さつまいも」注を紹介します。「さつまいも」は、食物繊維のほか、ビタミンB1、カリウムなどが豊富に含まれています。また、焼きいも、天ぷら、スイートポテトなど、幅広く調理することができる食材です。そこで、二人以上の世帯の結果から、購入量を中心に見てみましょう。

注：「さつまいも」は、「かんしょ(甘藷)」とも呼ばれています。

購入量は10月に最も多い

「さつまいも」は、例年関東では10月中旬から11月上旬、九州では10月上旬から11月下旬頃に収穫されます。平成26～28年平均における「さつまいも」の1世帯当たり1か月間の購入量を月別に見ると、10月が336gと最も多く、最も少ない6月(103g)に比べて3.3倍となっています(図1)。

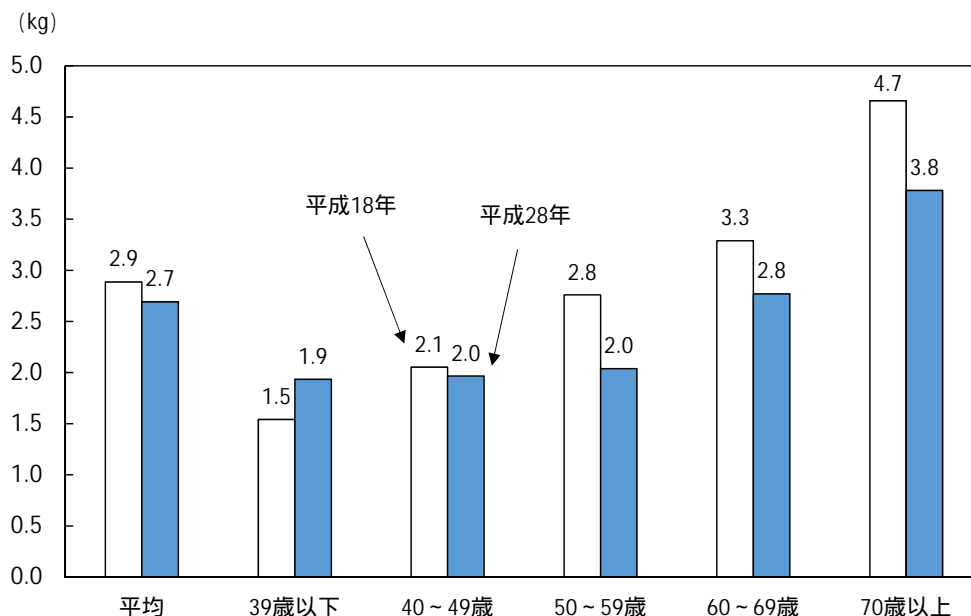
図1 「さつまいも」の1世帯当たり月別購入量(平成26～28年平均)



70歳以上の世帯の購入量は39歳以下の2倍

次に、平成28年における1世帯当たりの「さつまいも」の年間購入量を世帯主の年齢階級別に見ると、70歳以上の世帯が3.8kgと最も多く、最も少ない39歳以下の世帯（1.9kg）の2倍となっています。また、10年前の平成18年と比較すると、39歳以下では購入量が増加しているものの、40歳以上の各年齢階級では減少しています（図2）。

図2 世帯主の年齢階級別「さつまいも」の年間購入量（平成18年、28年）



九州の都市が上位

最後に、都道府県庁所在市別に1世帯当たりの「さつまいも」の購入量を見ると、「さつまいも」の語源にもなっている薩摩地方の鹿児島市が5.0kgと最も多く、次いで佐賀市（4.8kg）、熊本市（4.4kg）となっています（図3）。

図3 「さつまいも」の1世帯当たり年間購入量の都道府県庁所在市別ランキング（平成28年）

